

令和4年度 坤櫓等に関する史料・文献調査の成果

これまで、福井城址本丸の南西角に位置していた「^{ひつじさるやぐら}坤櫓」の形状については、江戸～明治時代の絵図や文献等でしか確認されておらず、また、史料により建物の向きなどが異なって表現されているため、形状を特定する根拠が不十分でした。さらに、古写真には、本丸の南東角に位置していた「^{たつみ}巽櫓」などは確認されていたものの、坤櫓の姿は確認されていませんでした。このため、今回の調査では古写真等を中心として精緻に確認を行ったところ、坤櫓について以下の点が明らかになりました。

・ 建物の向き・形状

明治初期に撮影された古写真である「^{の じ け し ゃ し ん ち ょ う}野路家写真帖八拾四番左」(福井市立郷土歴史博物館蔵)などを精緻に確認したところ、坤櫓が写っていることを確認しました。「野路家写真帖八拾四番左」には坤櫓の南面と東面の一部が写っており、坤櫓が^{いりもやづくり}三重櫓の形状であったことや、入母屋造の石瓦葺きで、建物の向きとしては東西方向に棟を置いており、巽櫓を90度回転させたような向きであったことを確認しました。また、巽櫓と同様に二層目に二か所の^{ちどり は ふ}千鳥破風や、三層目に^{からはふづくり}唐破風造の屋根を持つ出窓があったことを確認しました。

・ 一層目の高さ

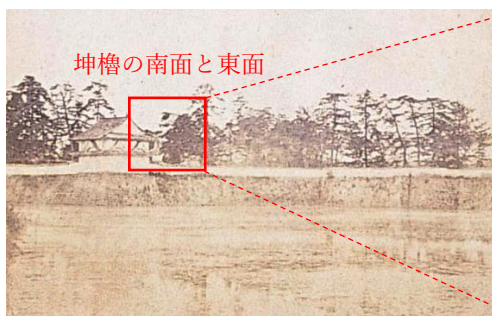
「旧福井城本丸御廊下橋之遠望」(同館蔵福井市春嶽公記念文庫)には、写真端部に坤櫓の一層目の屋根の軒先と壁が写っており、一層目の高さを知る手掛かりが得られました。

・ 建物の使われ方

文献調査を行ったところ、坤櫓および巽櫓は幕府役人や藩主によって城下の物見のため使用された櫓であるとともに、坤櫓は書物の保管場所、巽櫓は台所道具や食料の保管場所として使用されていたことを確認しました。

本調査の成果は、坤櫓の復元を検討するための重要な基礎資料になると考えられます。

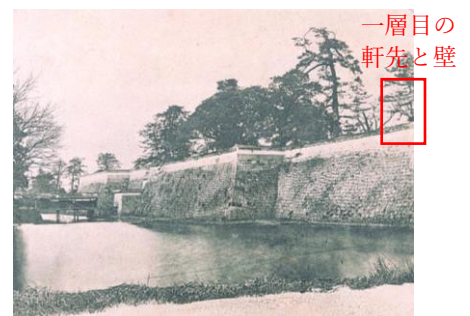
〔今回新たに古写真上で確認された坤櫓の姿〕



「野路家写真帖八拾四番左」
(福井市立郷土歴史博物館蔵)

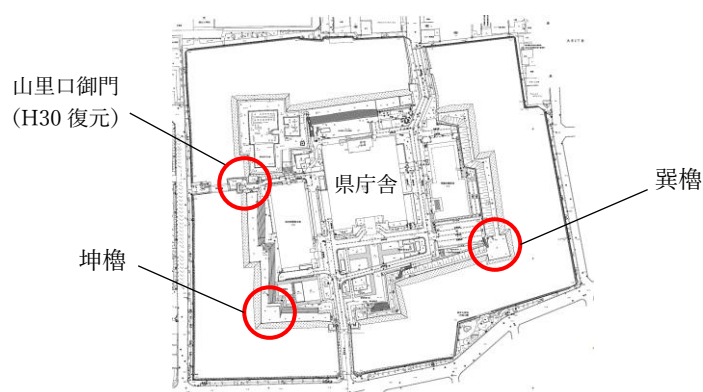


左写真赤枠部の拡大



「旧福井城本丸御廊下橋之遠望」
(福井市立郷土歴史博物館蔵福井市春嶽公記念文庫)

〔坤櫓と巽櫓の位置〕



〔参考：古写真に写る巽櫓〕



「旧福井城本丸巽三重櫓」部分
(福井市立郷土歴史博物館蔵福井市春嶽公記念文庫)